

踏まね踏まれても生き返る

NO.6 2024.6.3

# いたばし雑草通信

編集：発行 木村松夫

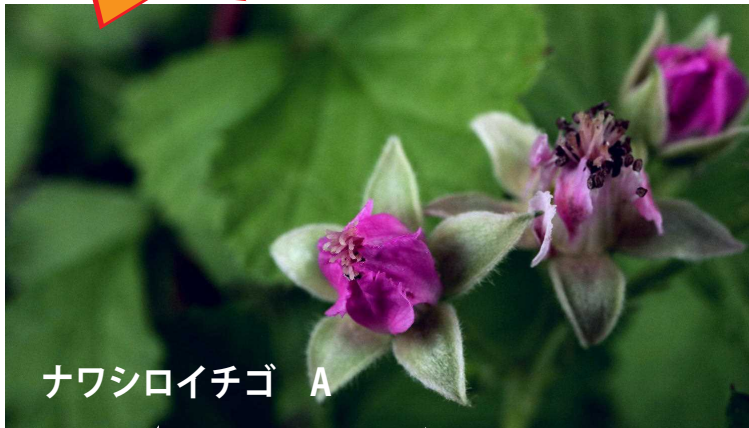
090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com

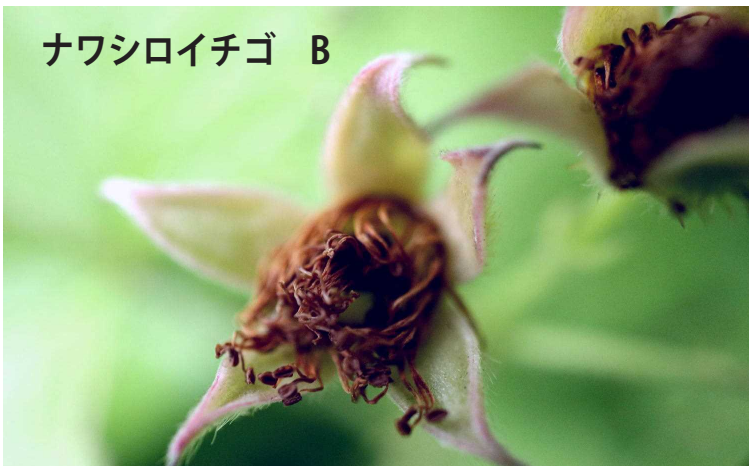
メール発信のみの情報紙です。無料購読希望の方はメールでお申込みください。鮮明画像のPDFでお送りします。

クイズ

次の3枚の写真の中から①花、②果実を選んでください



ナワシロイチゴ A



ナワシロイチゴ B



ナワシロイチゴ C

道端の花ばかりを紹介してきた本紙ですが、今回は珍しく都立赤塚公園でしか観察できない←ナワシロイチゴバラ科をご紹介します

イチゴの仲間ですが、直径10mmほどの花はきれいな濃いピンク色 (A)。花の咲き始めは花弁が閉じていて「これでも花か？」と思うのですが、立派に開花です。何日かすると (B) のように、これはもう受粉済みの姿。この花の枯れた姿はしばらく続くのですが、ある日、気が付くと立派に苺 (いちご) が実っていました (C)。

「果実」にもいろいろな態様あり

「実」でも「果実」でないものあり

さて、種子を実らせる植物では「果実」というと、雌しべの子房壁が発達して果皮となり、その中の種子を保護しているものです。それが水分を含む多肉質に成熟すると「液果」と呼ばれ、一般的に「果実」と呼ばれるものです。

\* 果皮が固く、中には種子しか入っていないものは「乾果」とよばれています。

(ほかの苺の仲間もすべてそうなのですが) じつは、苺のプチプチした部分が果実なのです。ナワシロイチゴでは (B) の先端部分がそれです。(C) ではこの果実は表面から立ち上がってそのまま残っていて、ほかの部分が苺らしく発達しています。だったら、この赤くておいしい部分は何なの？ これは、花床または花托 (萼が厚くなって、ここから花が育つ部分) が発達して球状に膨らんだもので「偽果」と言われています。

なんと、苺の赤くて甘くておいしい部分の実態は「果実」ではなく「偽せの果実」なのでした。

したがって、答は①花=A、②果実=B C (の赤い部分) =実は実であっても「偽果」です。

イチゴの仲間の特質なのですが、そんなことを考えながら苺を食べる人はいませんね。

このナワシロイチゴは食用になるということですが、赤塚公園ではどんな植物も採集禁止です。きれいだから、食べられるからと言って、みんなが採ってしまえば、植物は絶滅してしまいます。

みんなの公園は「自分の公園ではない」という、「公共の心構え」が必要です。

## ギシギシ タデ科 の季節になりました



草丈60cm以上になるので、街路樹の下ではすぐに刈り取られてしまうのですが、草刈りされていないまちかどの小さな公園ではよく観られます。

遠目に見ても、お皿のような葉っぱ(じつは萼片)の上にちんまりと白い卵型のものが乗っかっているのが目立つ、すごく特徴がある野草なので、すぐにわかります。

と、ここまでは簡単なのですが。この卵型は何なの？ 花のようで花でなし。誰でも見ているこれは果実なのです。成熟すると、これが黄茶色になるのですぐわかるのですが、そうでないと、左の写真は



「花盛り」のように見えます。しかしですよ、これが果実だとすれば、花はどこにいつ咲いたのか？ そんなことを気にしながら歩いている人はいないので、写真を撮っているわたしは変人扱い。でも「この卵型は果実なのだから、ここに雌蕊(めしべ)があったはず。だとすれば雄蕊(おしべ)も近くにあるはずだ」と探しました。花穂をひっくり返したり、まだ果実が発達していない株を見つけて凝視すると、確かに雄蕊が見つかりました。長さは2~3mm、小さな黄色い、かわいい雄蕊でした(右の写真)。

この種の仲間には、ほかにナガバギシギシ、アレチギシギシがあり、さらにエゾノギシギシも確認されています。植物図鑑では明瞭な説明がされているのに実際に観ると同定は難しく、比較的正しい検索ができるスマホアプリの「Picture This」でも、同じ個体を角度を変えて撮影すると「ナガバギシギシ」とでたり「ギシギシ」と出たりするので「ええ加減にせいよ！」と叫びたくなります。そこで・・・、**エコポリの植物一斉調査ではみんな「ギシギシ(とその仲間)」に統一して記録することにしました。**

## オヤブジラミ セリ科 はそろそろ結実

70~80歳代の人ならば知っている虱(しらみ)に実の形が似ているので、この名がつけられました。花茎の先端の花序(かじょ=花を付ける枝)が3~4本なのがオヤブジラミ。種名のあたりに「オ」が付かないご本尊ヤブジラミは、たくさん花序を伸ばしているので、もっと豪華なのですが、滅多に観られません。花後の果実は毛だらけで、見ただけで身体中がかゆくなるのですが、4月後半の花の咲きかけは右の写真のようにこんなにきれい。これはミスネーミングと言うべき！

